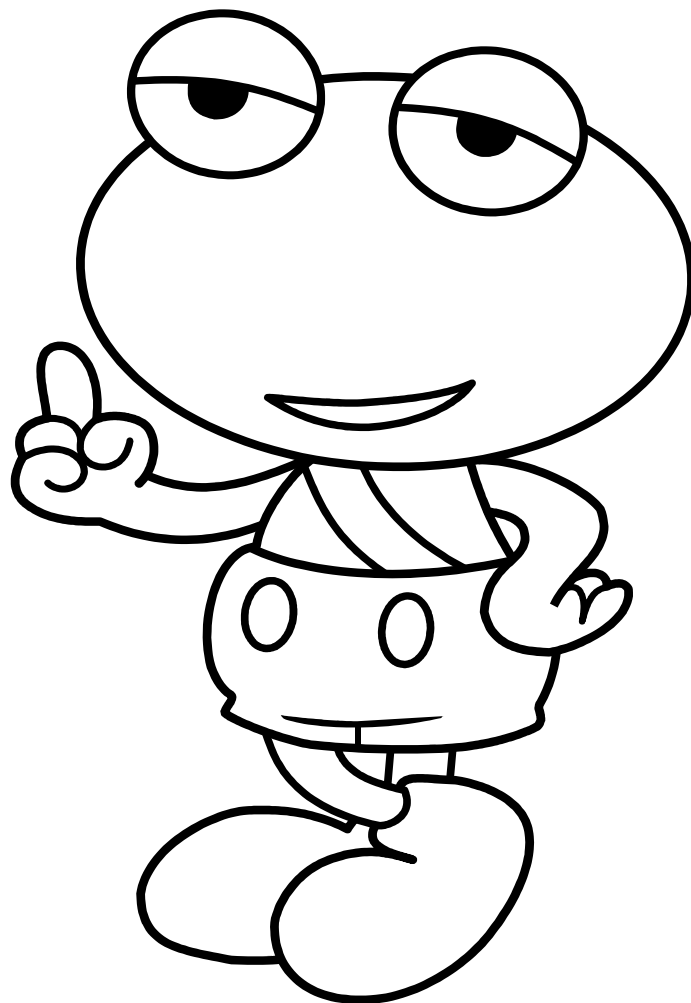


平成23年 1月

平成22年中の 交通事故発生状況



茨城県警察本部交通企画課

URL <http://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/>

E-mail keikoki@pref.ibaraki.lg.jp

目 次

1	概 況	1
2	高齢者(65歳以上)が関係した交通事故	5
3	青少年(16~24歳)運転者による交通事故	7
4	飲酒運転による交通事故	9
5	最高速度違反による交通事故	11
6	シートベルト着用状況	13
7	平成23年の交通事故防止対策	14
8	平成23年 交通安全年間スローガン	15

平成22年中の人身交通事故発生状況

1 概況

県内人身交通事故・全国死者数の推移

死者数は205人、前年に比べ6人増加

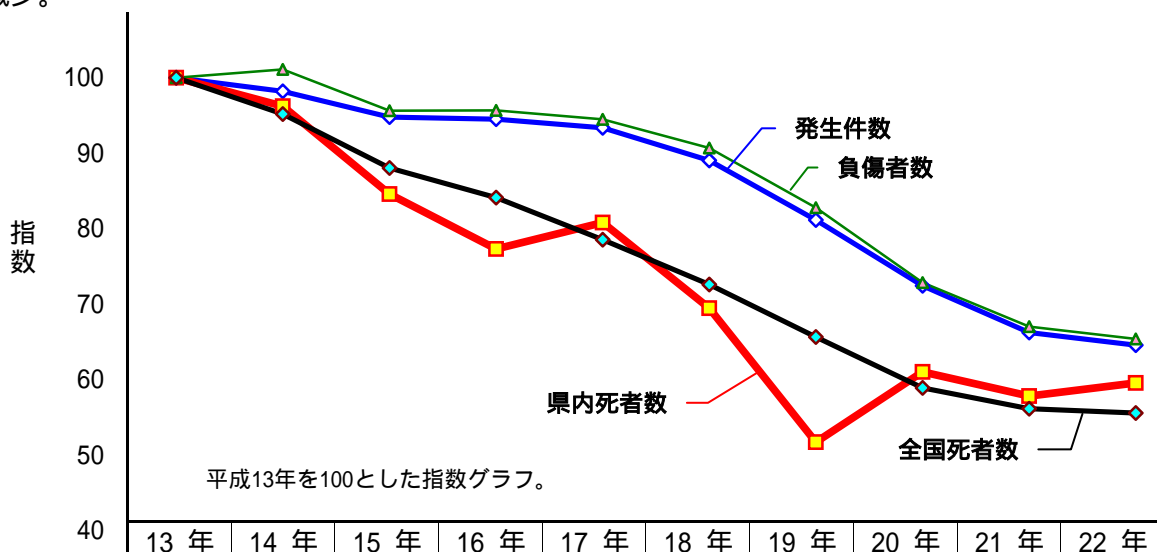
平成22年中の死者数は205人で、平成20年(210人)以来2年振りの200人台。

発生件数は、平成12年(25,429件)をピークとして、平成13年から10年連続で減少。

全国の死者数は、4,863人(対前年比 - 51人)、平成13年から10年連続の減少で、昭和27年以来57年振りの4千人台となった前年を更に下回る。

県内の死者数は、全国同様大幅な減少傾向で推移しており、ピーク時(昭和46年,633人)の約3割に減少。

	発生件数	死亡件数	死者数	負傷者数
22年	16,246	198	205	21,102
21年	16,668	192	199	21,634
増減数	- 422	+ 6	+ 6	- 532
増減率	- 2.5	+ 3.1	+ 3.0	- 2.5



	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
県内発生件数	25,154	24,699	23,840	23,773	23,486	22,396	20,415	18,225	16,668	16,246
県内死者数	344	331	291	266	278	239	178	210	199	205
県内負傷者数	32,264	32,622	30,858	30,870	30,488	29,261	26,710	23,508	21,634	21,102
死者数ワースト順位	6位	7位	9位	11位	6位	11位	11位	6位	6位	3位
全国死者数	8,747	8,326	7,702	7,358	6,871	6,352	5,744	5,155	4,914	4,863

死者数全国ワースト3位、人口当たりでは4位

死者数全国順位は、統計資料の残る昭和39年以降、過去最悪のワースト3位。

【平成21年以前のワースト最上位は、平成9年(397人)の4位】

死者数ワースト都道府県

順位	都道府県	死者数	増減数
1位	東京	215	+10
1位	北海道	215	- 3
3位	茨城	205	+ 6
4位	大阪	201	- 4
5位	埼玉	198	- 9
6位	愛知	197	-30
7位	兵庫	192	+16
8位	千葉	184	-13
9位	神奈川	182	+ 6
10位	福岡	170	-25

増減数は、対前年比。

人口10万人当たり

順位	都道府県	死者数
1位	栃木	7.28
2位	三重	7.27
4位	茨城	6.92
全国平均		3.80

人口(H22/7/1)

自動車1万台当たり

順位	都道府県	死者数
1位	高知	0.93
2位	鳥取	0.92
8位	茨城	0.83
全国平均		0.62

自動車台数(H20/12/31)

死者数205人
全国ワースト3位。
【前年6位】

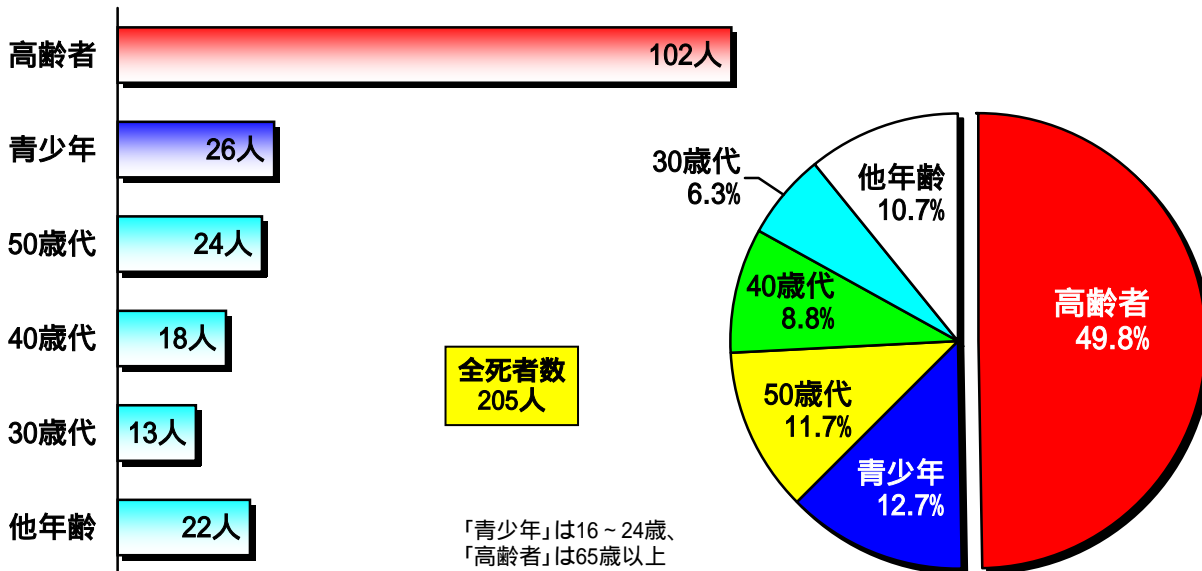
人口10万人当たり死者数
全国ワースト4位。
【前年3位】

自動車1万台当たり死者数
全国ワースト8位。
【前年7位】
参照自動車台数は21年中

年齢層別死者数

高齢者の死者が約5割で最も多い

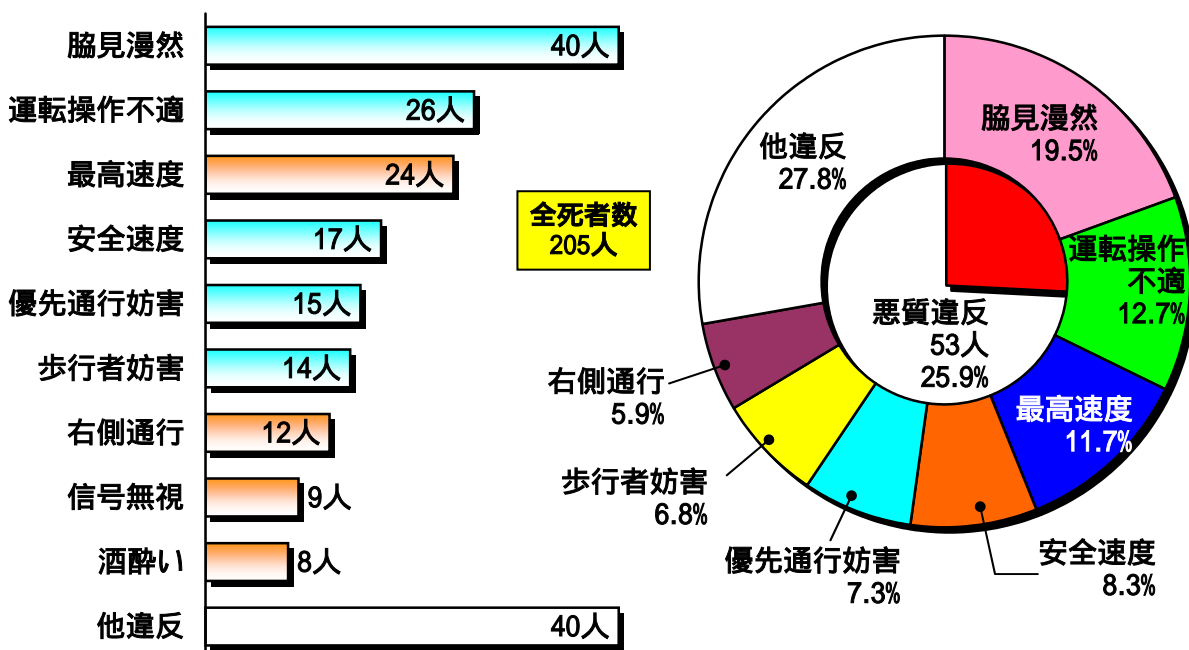
高齢者(65歳以上)が102人で、全死者の49.8%を占め、平成6年以降最も死者数の多い年齢層。特に75歳以上(63人)が多い。【高齢者の死者数(102人)は、全国ワースト1位】
 次いで、青少年(16~24歳,26人)、50歳代(24人)、40歳代(18人)。
 対前年比では高齢者(+12人)が大幅に増加、40歳代(-6人)が最も減少。
 50歳代(-4人)、30歳代(+2人)、青少年(+4人)。



第1当事者の違反別死者数

脇見漫然運転が最も多く、運転操作不適が増加

「脇見漫然運転」による死者数が40人で最も多く、次いで運転操作不適(26人)。
 「悪質違反」(最高速度、右側通行、信号無視、酒酔いの合計)は53人で、全死者の25.9%を占める。
 対前年比では、「運転操作不適」(+16人)が大幅に増加、「脇見漫然」(-9人)が最も減少。

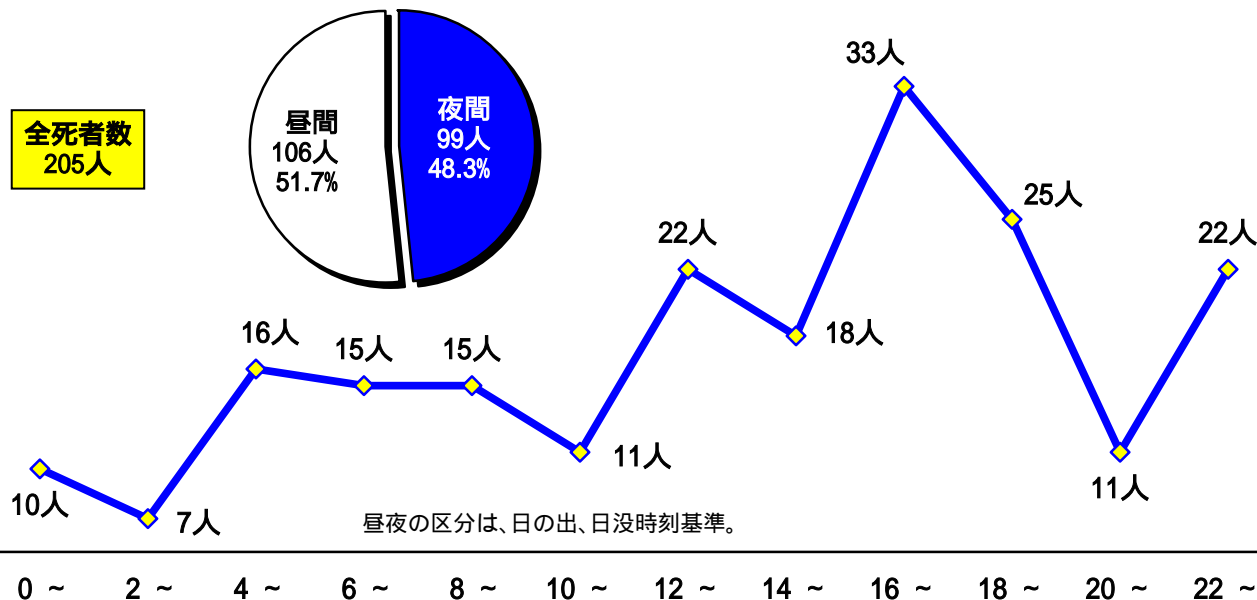


「悪質違反」は、最高速度、右側通行、信号無視、酒酔い運転による死者の合計。

時間帯・昼夜死者数

昼間が5割を超える、16～18時に多発

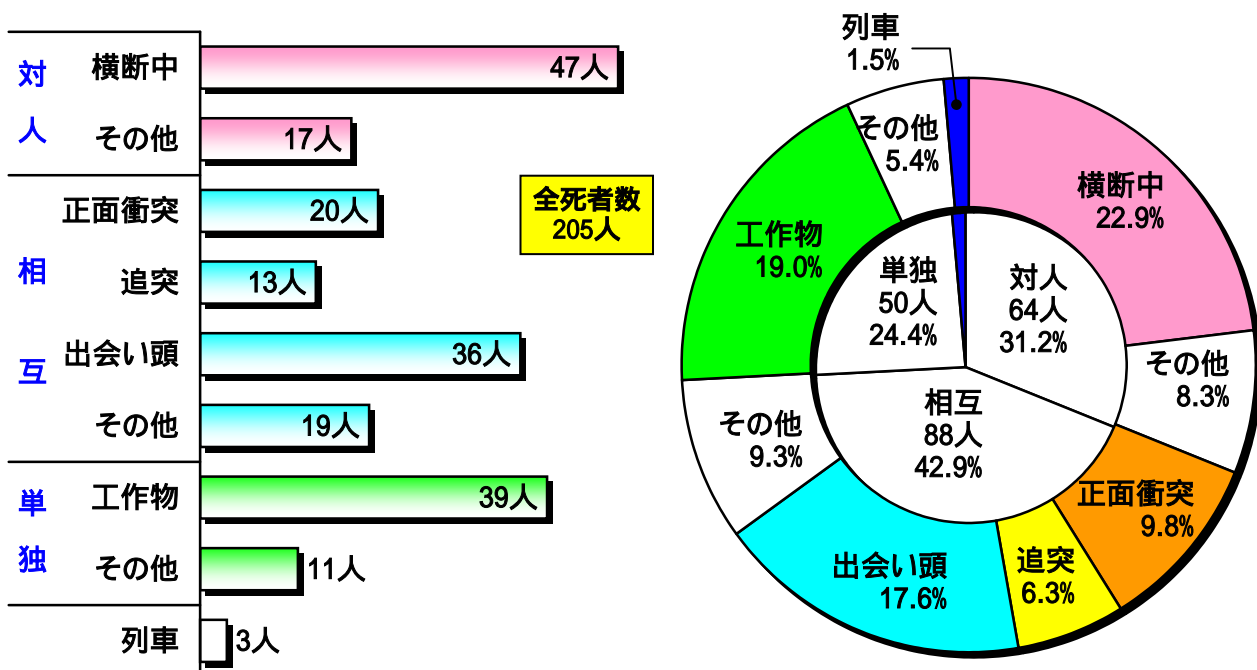
昼間が106人で全死者の51.7%を占め、対前年比(+21人)は大幅に増加、夜間は99人(48.3%)で大幅に減少(-15人)。平成21年は夜間が約6割(114人,57.3%)。時間帯では「16～18時」(33人)が最も多く、次いで「18～20時」(25人)。対前年比では「16～18時」(+13人)が大幅に増加、「2～4時」(-12人)が大幅に減少。



事故類型別死者数

「対人-横断中」が最も多く、「単独-工作物」が増加

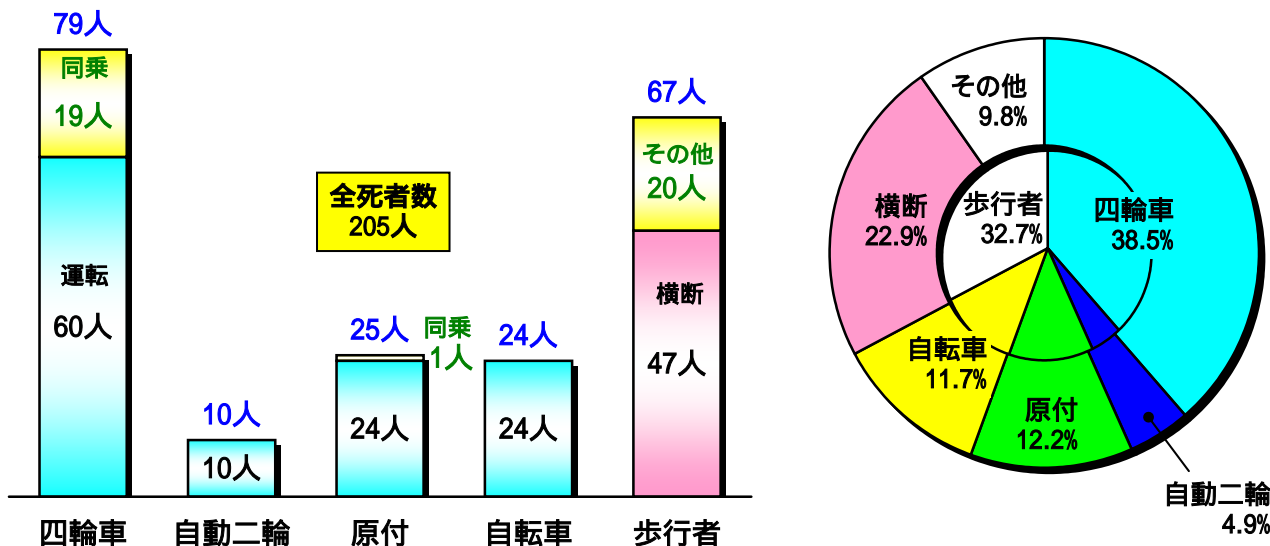
「車両相互」が88人で、全死者の42.9%を占める。小類型では、「対人-横断中」(47人)が最も多く、次いで「単独-工作物」(39人)、「相互-出会い頭」(36人)。対前年比では、「工作物」(+14人)が大幅に増加、「正面衝突」(-8人)が最も減少。



状態別死者数

四輪車・歩行者の順に多い

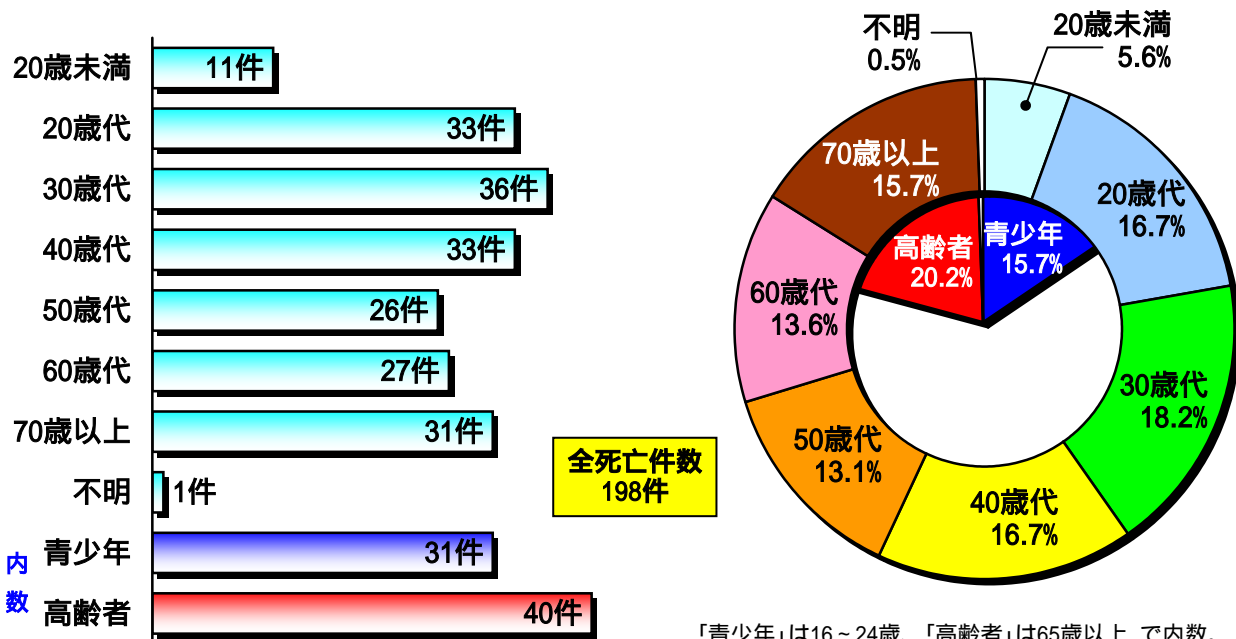
四輪車乗車中が79人で全死者の38.5%を占め最も多く、次いで歩行者(67人, 32.7%)。平成21年は、歩行者が最多、次いで四輪車。歩行者、自転車の合計91人中、高齢者が73.6%(67人)を占める。対前年比では、原付(+13人)が大幅に増加。



第1当事者の年齢層別死亡件数

高齢者による事故が最多

内数の高齢者による事故が40件で最も多く、次いで30歳代(36件)。青少年は31件。対前年比では、60歳代(+13件)が大幅に増加、20歳代(-8件)が最も減少。高齢者は増加(+4件)、青少年は減少(-5件)。



「青少年」は16～24歳、「高齢者」は65歳以上で内数。

2 高齢者(65歳以上)が関係した交通事故

高齢者が関係した交通事故の推移

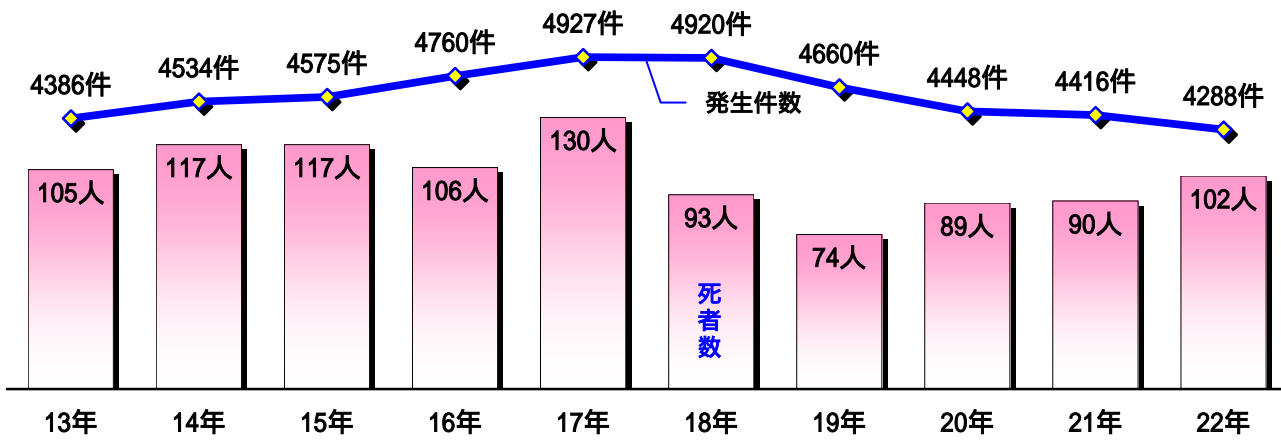
死者の約5割が高齢者

発生件数は4,288件、ピークの平成17年(4,927件)以降、5年連続で減少。全人身事故件数に占める割合(構成率)は26.4%。

死者数は102人で、全国ワースト1位。対前年比+12人。平成17年(130人)以来5年ぶりに100人を突破。全死者数に占める割合(構成率)は49.8%で、過去最高を更新。

全国の高齢者の死者数は、2,450人(対前年比-2人、構成率50.4%)。

	発生件数	死者数	負傷者数
22年	4,288	102	2,665
21年	4,416	90	2,760
増減数	-128	+12	-95
構成率	26.4%	49.8%	12.6%



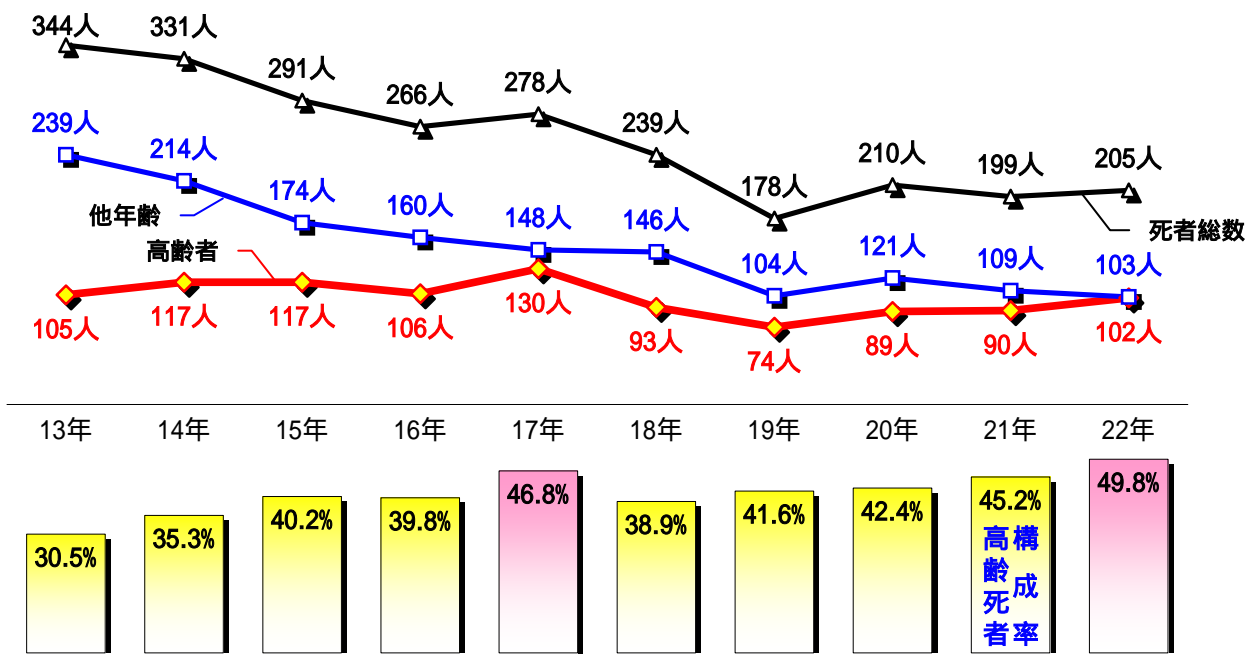
発生件数は、高齢者が当事者(四輪同乗者等を含む)となった件数。死者数、負傷者数は、高齢者本人の被害。以下同じ。

全死者と高齢者死者の推移

高齢者の死者は3年連続増加

死者総数の大幅な減少に対し、高齢者はピークの平成17年(130人)以降減少したが、平成20年から3年連続で増加。

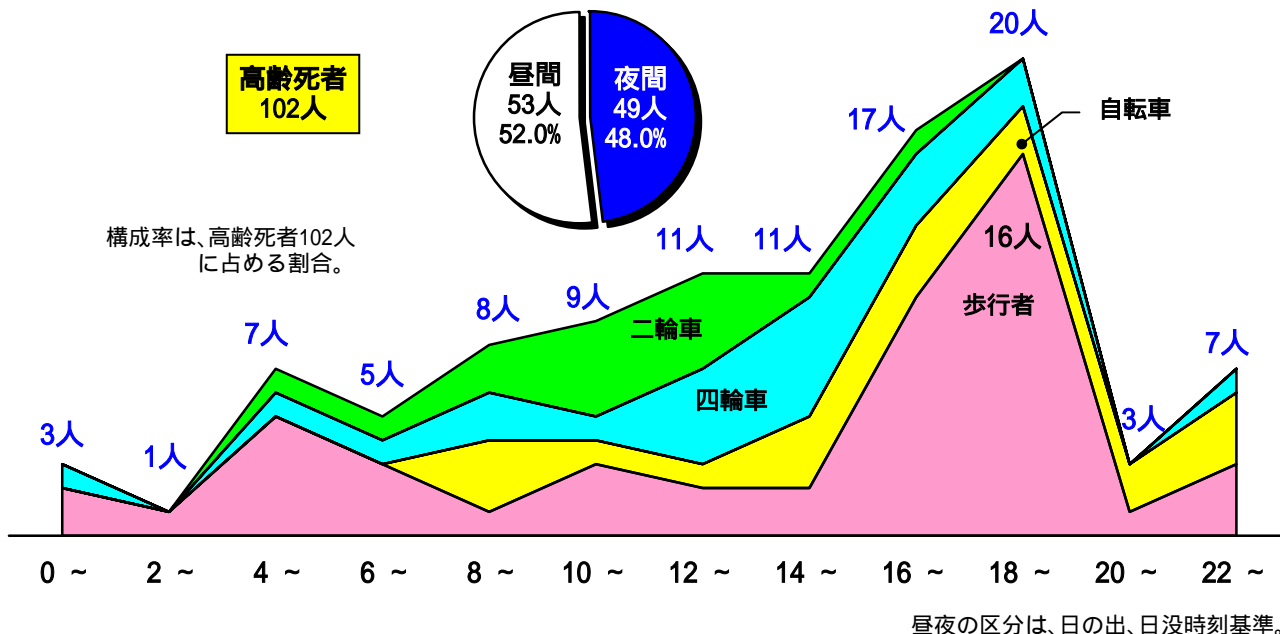
高齢者の死者構成率は、平成17年に46.8%まで急増した後、翌18年は3割台まで減少したが、平成19年には再び4割を超え、4年連続で増加、平成22年は過去最高(49.8%)を更新。



時間帯・昼夜死者数

18～20時に多発

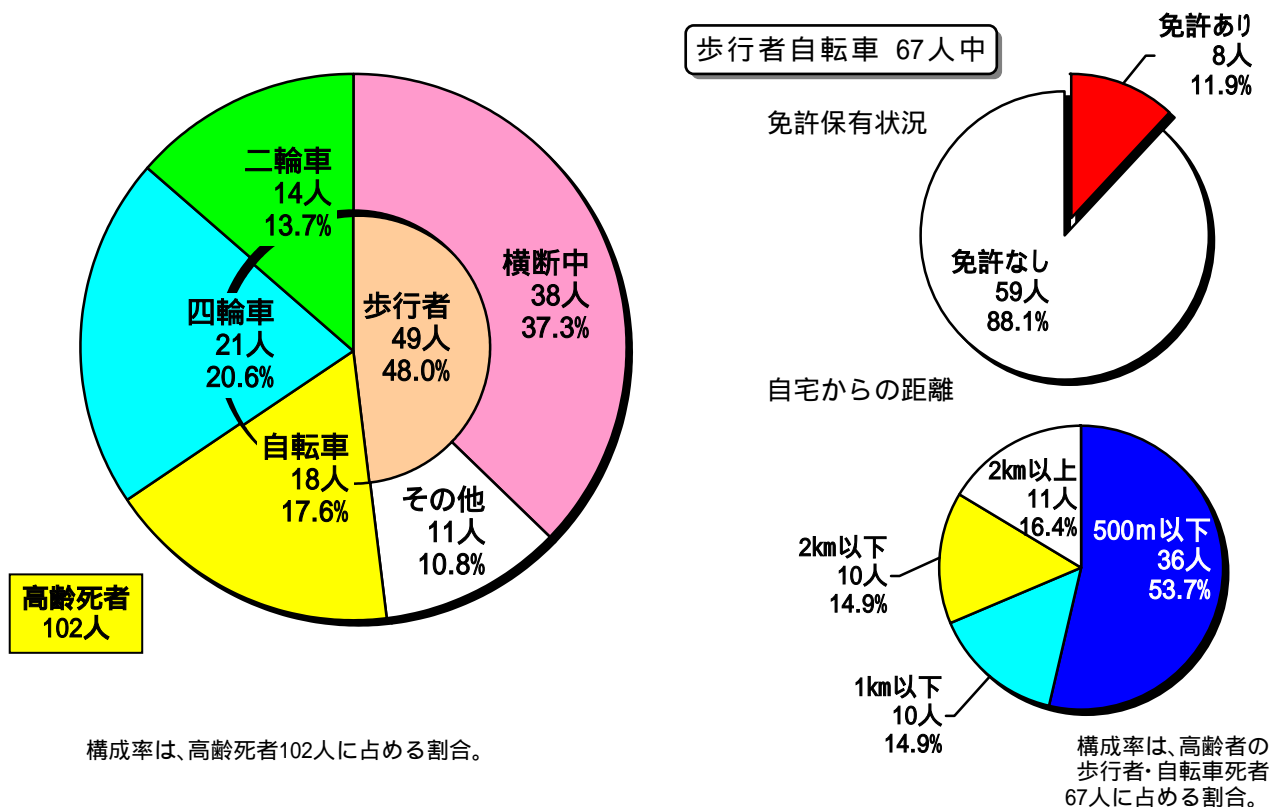
昼間が53人(52.0%)、夜間が49人(48.0%)。
 時間帯では、「18～20時」(20人)が飛び抜けて多く、次いで16～18時(17人)。
 「18～20時」の20人中、歩行者(16人)が8割を占める。



状態別死者数

歩行者が約5割

歩行者が49人で48.0%を占め、特に横断中(38人)が多い。
 歩行者・自転車の合計は67人、高齢者の65.7%を占める。このうち88.1%(59人)は運転免許を保有しておらず、53.7%(36人)が、自宅から半径500m以下の場所で事故に遭っている。



3 青少年(16~24歳)運転者による交通事故 事故を起こした側

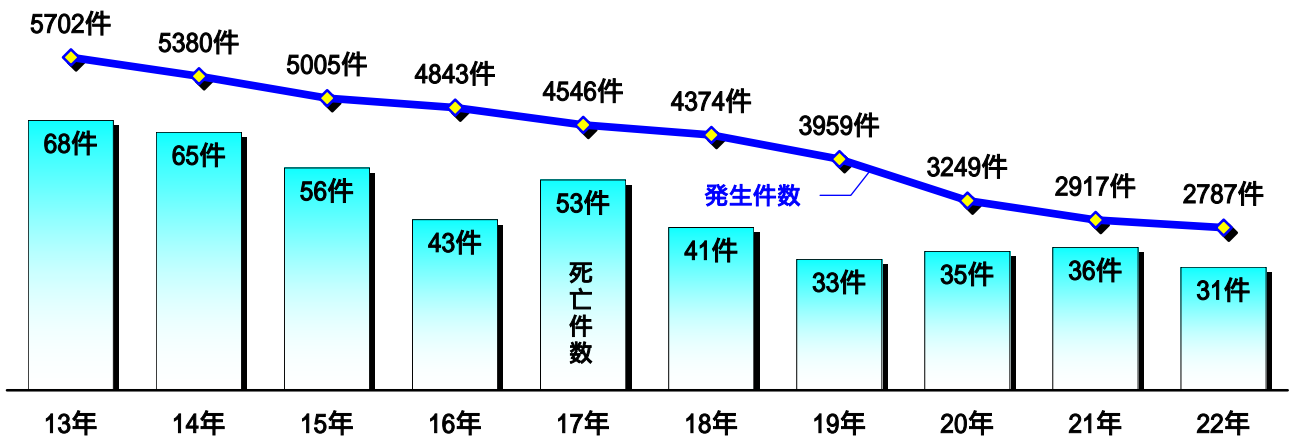
青少年運転者による交通事故の推移

青少年運転者が起こす死亡事故は減少

発生件数は2,787件、平成13年から10年連続で減少。
 全人身事故件数に占める割合(構成率)は、17.2%。
 死亡件数は31件で、対前年比 - 5件。全死亡件数に
 占める構成率は15.7%。

発生件数はピーク(平成5年・6,795件)の約4割、死亡件数はピーク(平成4年,172件)の2割以下に減少。

	発生件数	死亡件数	死者数	負傷者数
22年	2,787	31	33	3,852
21年	2,917	36	39	3,960
増減数	- 130	- 5	- 6	- 108
構成率	17.2%	15.7%	16.1%	18.3%

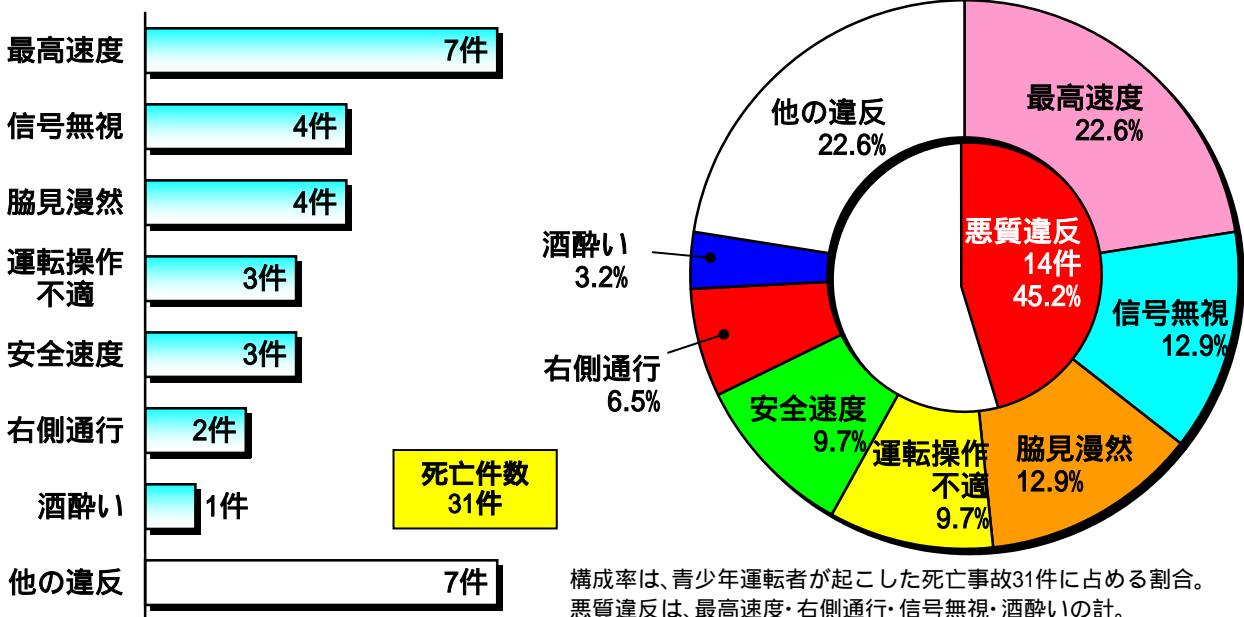


- 発生件数は、原付以上の車両を運転中の青少年(16~24歳)が第1当事者となった事故件数。死者数、負傷者数は、その事故による全被害で、青少年運転者が死傷しているとは限らない。以下同じ。
- 死亡件数は、発生件数の内数。

違反別死亡事故件数

最高速度違反等の「悪質違反」が約5割

最高速度が7件(22.6%)で最も多く、他の年齢層運転者構成率(11.8%)に比べ約2倍高い。
 悪質違反(最高速度・右側通行・信号無視・酒酔いの合計)は14件で、45.2%を占める。

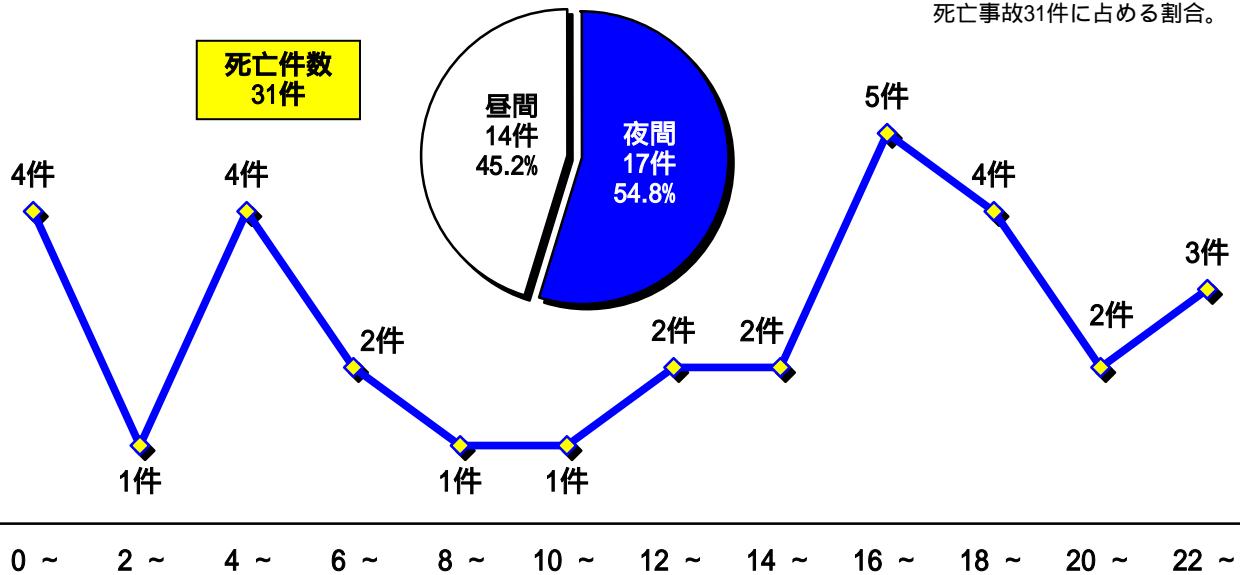


時間帯・昼夜別死亡件数

夜間が5割を超える

夜間が17件(54.8%)、昼間が14件(45.5%)。
 時間帯では、「16～18時」(5件)が最も多く、次いで「0～2時」・「4～6時」・「18～20時」(各4件)。

構成率は、青少年運転者が起こした死亡事故31件に占める割合。

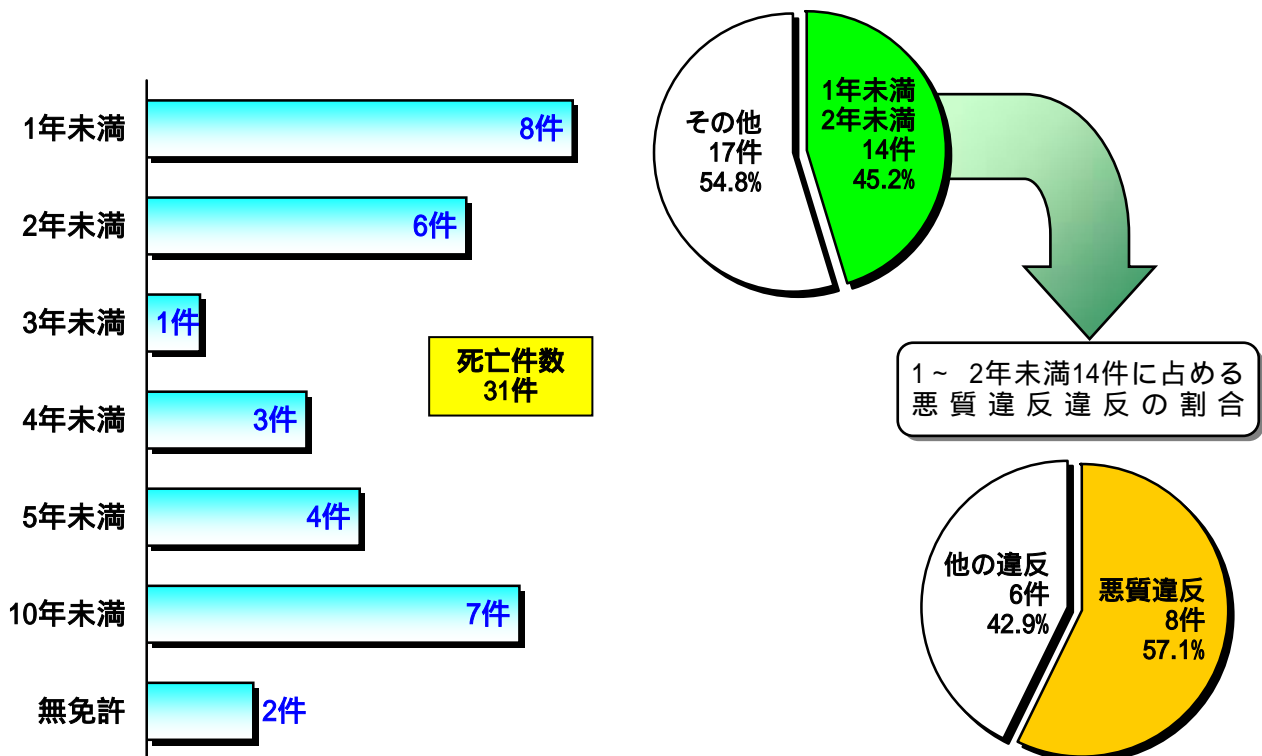


昼夜の区分は、日の出、日没時刻基準。

免許取得経過年数別死亡件数

免許取得後2年未満が約5割

免許取得後1年未満が8件で最も多く、次いで10年未満(7件)。
 1～2年未満の合計は14件で、45.2%を占める。
 1～2年未満14件中、最高速度等の悪質違反が8件(57.1%)と多い。



4 飲酒運転による交通事故 事故を起こした側

飲酒運転による交通事故の推移

発生件数、死亡事故ともに増加

発生件数は225件、平成18年から4年連続減少後、本年増加。

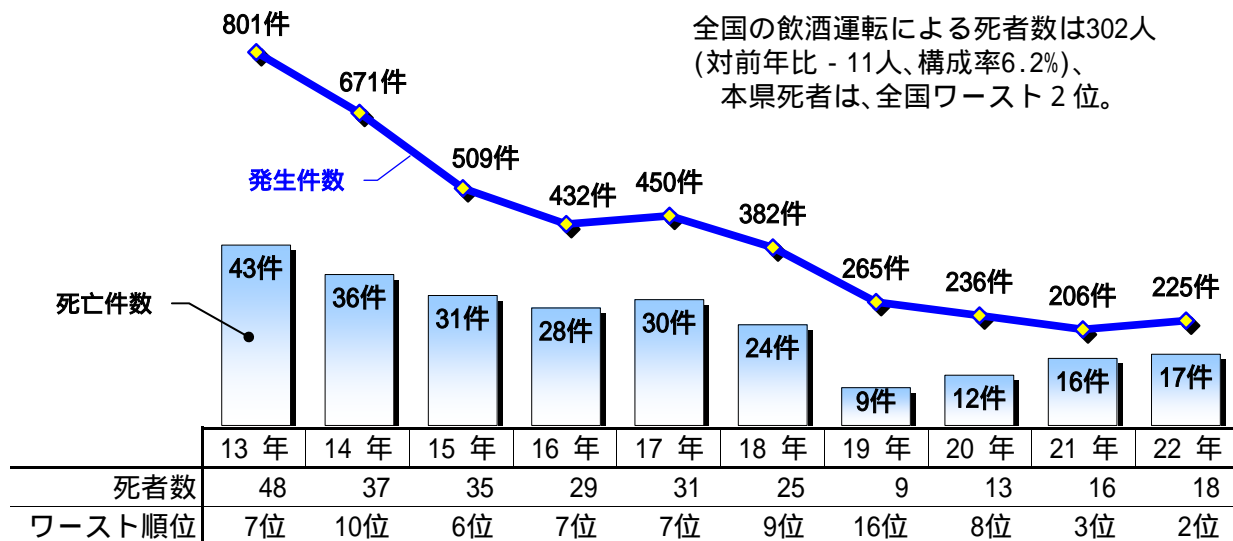
全人身事故件数に占める割合（構成率）は1.4%。

死亡件数は17件、死者数は18人、対前年比+2人。

死者数は平成19年に9人まで減少後、翌20年から3年連続で増加。

全死亡件数に占める構成率は8.6%。

	発生件数	死亡件数	死者数	負傷者数
22年	225	17	18	337
21年	206	16	16	304
増減数	+19	+1	+2	+33
構成率	1.4%	8.6%	8.8%	1.6%



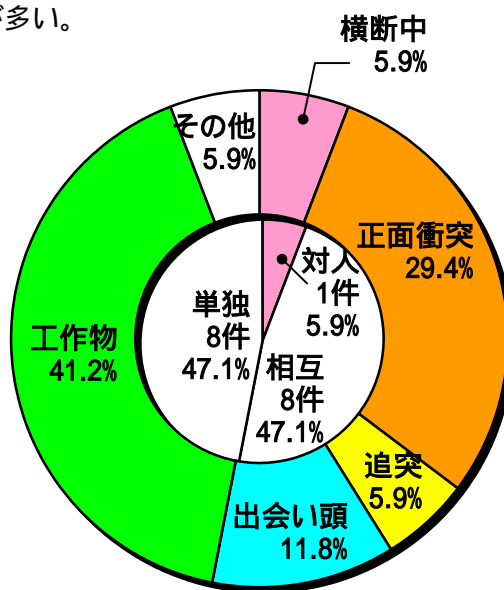
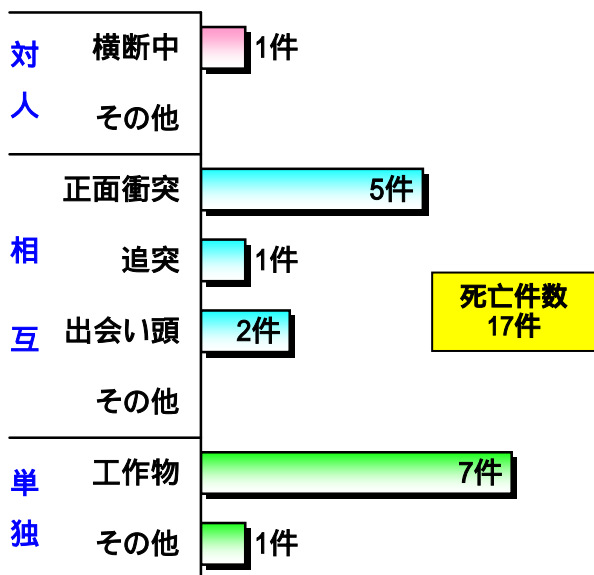
全国の飲酒運転による死者数は302人（対前年比 - 11人、構成率6.2%）、
本県死者は、全国ワースト2位。

1 発生件数は、原付以上の飲酒運転者が第1当事者となった事故件数。死者数、負傷者数は、その事故による全被害で、飲酒運転者が死傷しているとは限らない。以下同じ。
2 死亡件数は、発生件数の内数。

事故類型別死亡事故件数

車両単独事故が約5割

車両単独が8件(47.1%)で、特に工作物(7件)が多い。
次いで、車両相互-正面衝突の5件。

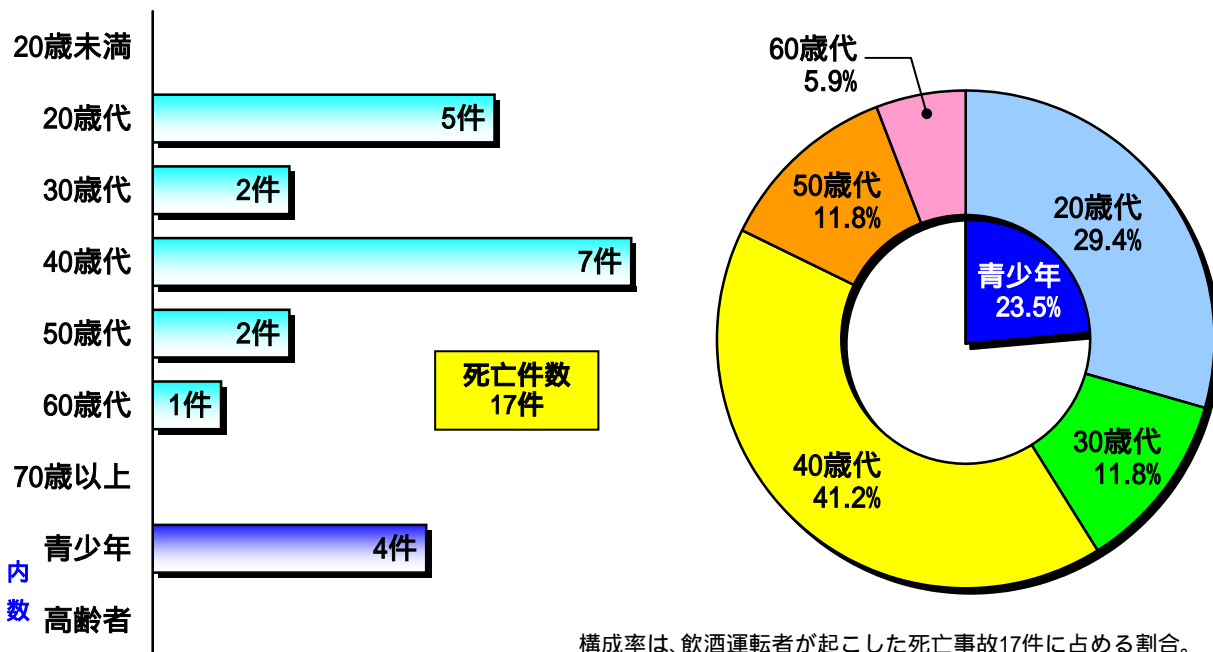


構成率は、飲酒運転者が起こした死亡事故17件に占める割合。

第1当事者の年齢層別死亡件数

40歳代が最も多い

40歳代が7件(41.2%)で最も多く、次いで20歳代(5件)。
内数の青少年(16~24歳)は4件、高齢者(65歳以上)は発生なし。

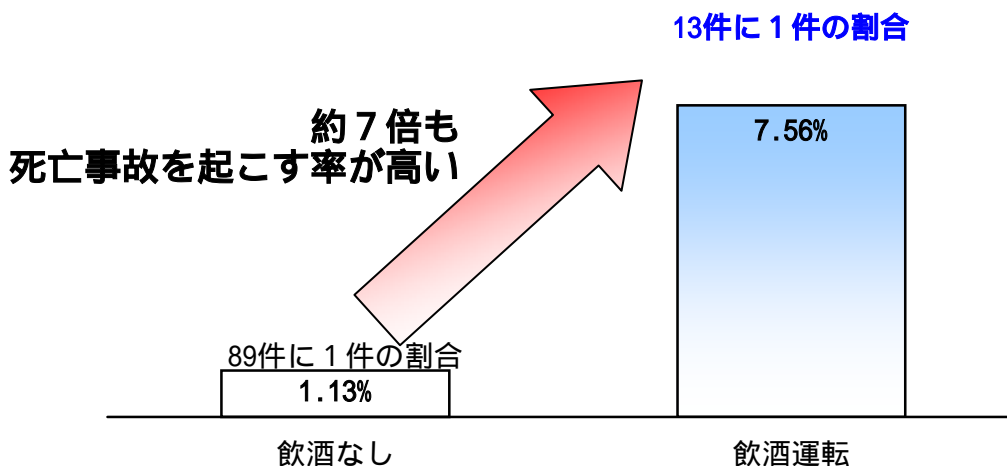


構成率は、飲酒運転者が起こした死亡事故17件に占める割合。
「青少年」は16~24歳、「高齢者」は65歳以上で内数。

運転者死亡事故率の比較

飲酒運転は約7倍も死亡事故を起こしやすい

飲酒運転者は、飲酒なしの運転者に比べ、約7倍も死亡事故を起こす率が高い。



	運転者の飲酒有無		合計(平均)
	飲酒なし	飲酒運転	
死亡件数	176件	17件	193件
発生件数	15,615件	225件	15,840件
死亡事故率	1.13%	7.56%	1.22%

1 死亡事故率 = (原付以上第1当事者の死亡件数) ÷ (原付以上第1当事者の全発生件数) × 100。
2 死亡事故第1当事者の、自転車(4件)・ひき逃げ不明(1件)、全事故第1当事者の、自転車・ひき逃げ不明を除く。

5 最高速度違反による交通事故 事故を起こした側

最高速度違反による交通事故の推移

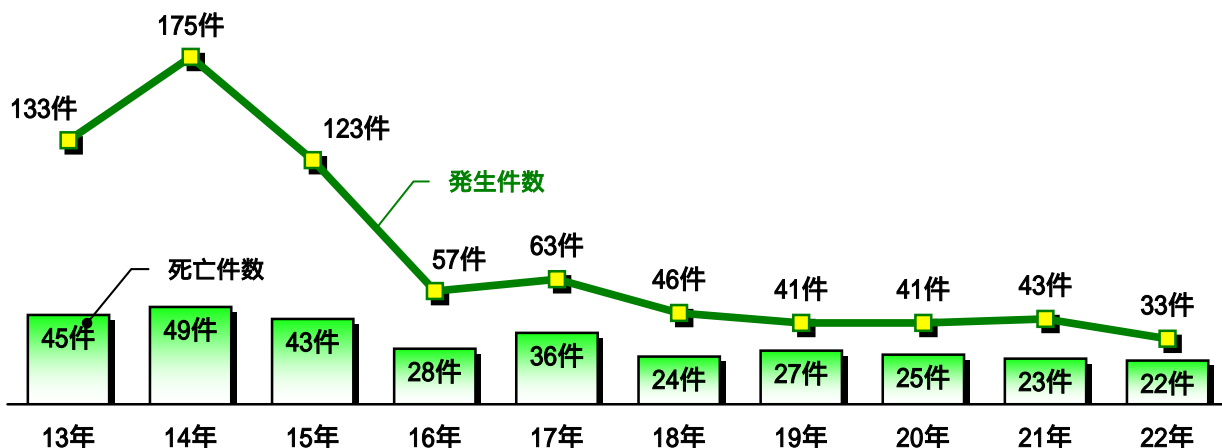
発生件数・死亡事故とも減少

発生件数は33件、対前年比 - 10件。全人身事故件数に占める割合(構成率)は0.2%。

死亡件数は22件、死者数は24人、対前年比 - 2人。全死亡件数に占める構成率は1割以上(11.7%)。

発生件数はピーク(昭和50年・750件)の5%以下に減少、死亡件数は平成20年から3年連続で減少し、ピーク(平成5年・116件)の2割以下。

	発生件数	死亡件数	死者数	負傷者数
22年	33	22	24	37
21年	43	23	26	48
増減数	- 10	- 1	- 2	- 11
構成率	0.2%	11.1%	11.7%	0.2%

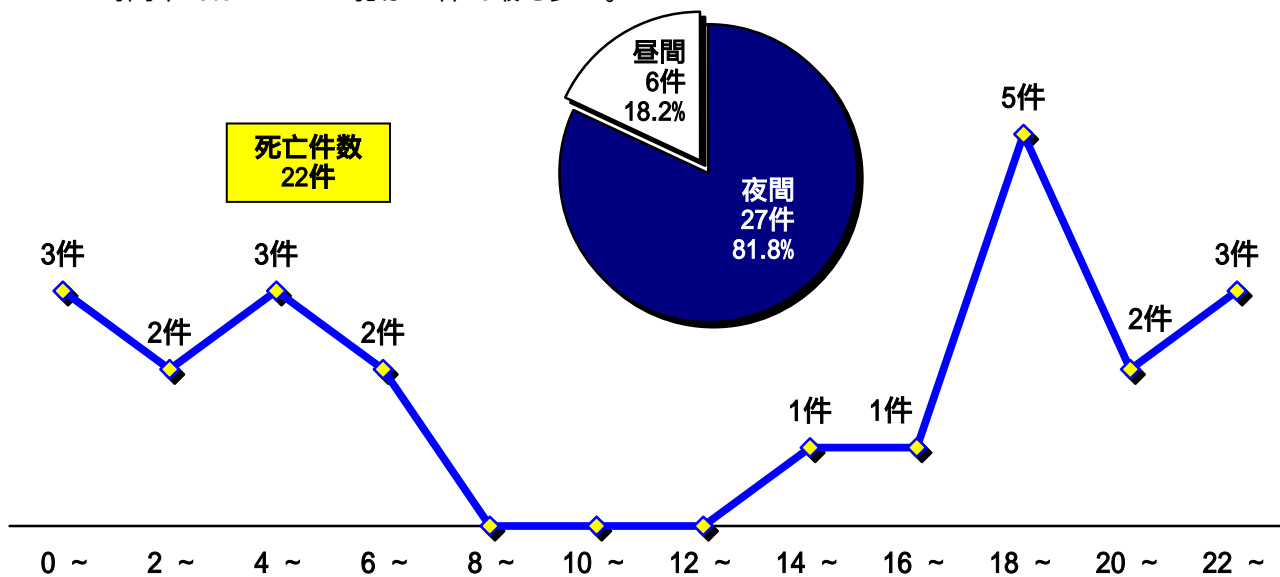


1 発生件数は、原付以上運転の第1当事者が、最高速度違反が原因で起こした事故件数。死者数、負傷者数は、その事故による全被害で、最高速度違反者が死傷しているとは限らない。以下同じ。
2 死亡件数は、発生件数の内数。

時間帯・昼夜別死亡件数

夜間が8割以上

夜間が27件で、81.8%を占める。
時間帯では「18～20時」が5件で最も多い。

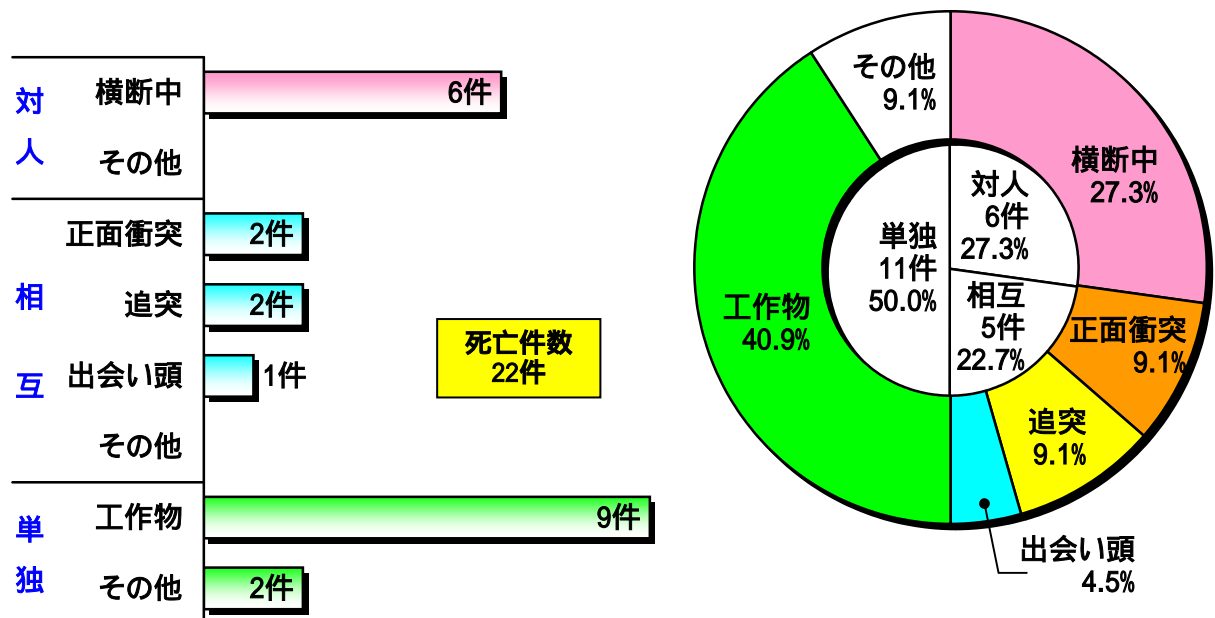


昼夜の区分は、日の出、日没時刻基準。

事故類型別死亡件数

車両単独事故が5割

車両単独が11件(50.0%)で、特に工作物(9件)が多い。
 工作物9件中、1件で2人以上死亡する事故が2件(4人)発生。

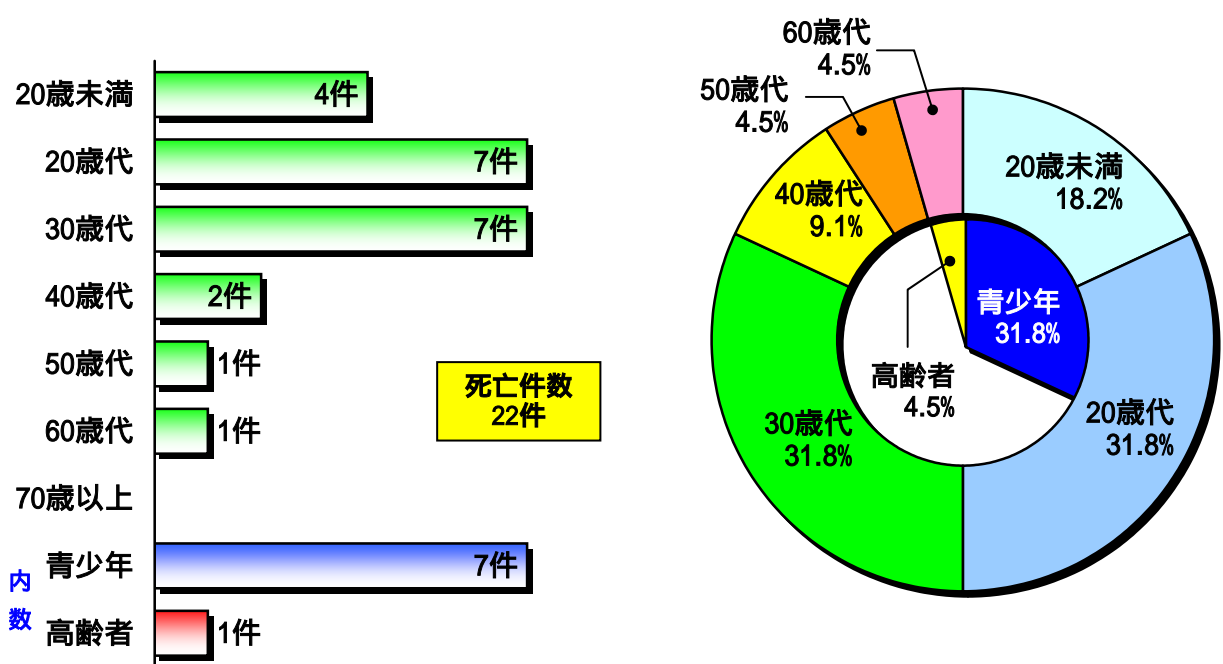


構成率は、最高速度の死亡事故22件に占める割合。

第1当事者の年齢層別死亡件数

20歳代・30歳代が最も多い

20歳代・30歳代が各7件で最も多く、30歳代未満の合計(18件)で8割以上を占める。
 内数の青少年は7件、高齢者は1件。



構成率は、最高速度の死亡事故22件に占める割合。
 「青少年」は16～24歳、「高齢者」は65歳以上で内数。

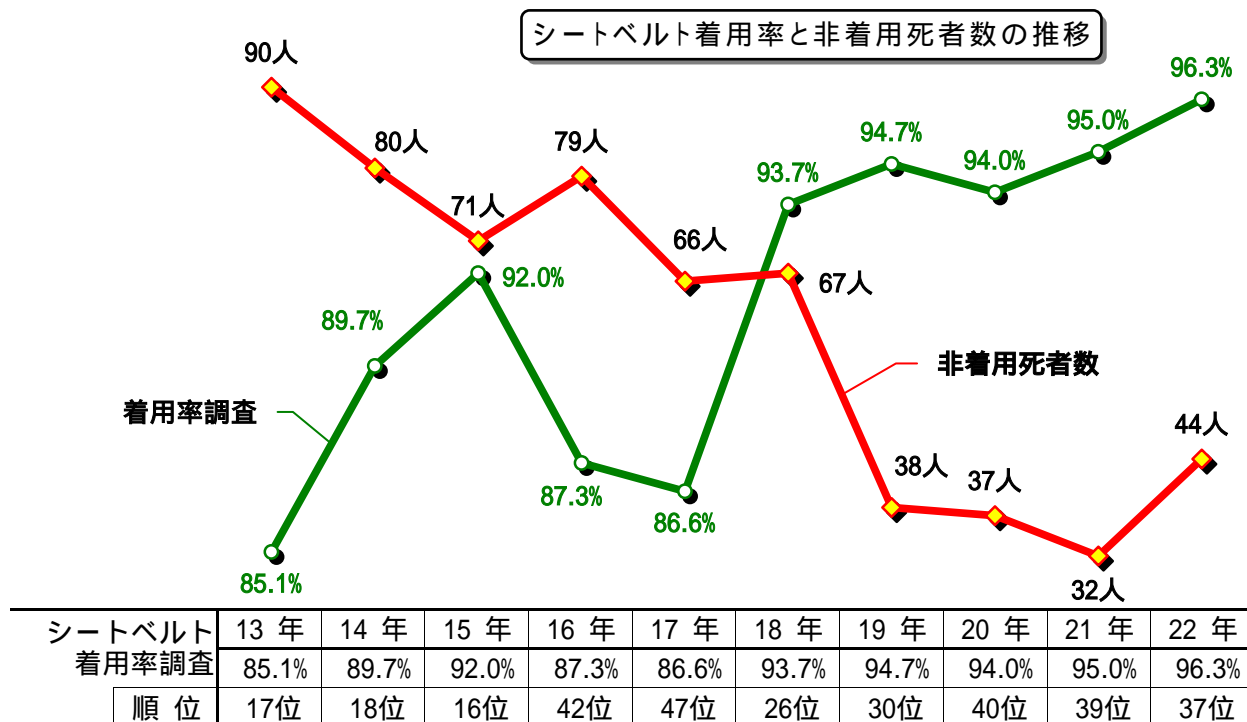
6 シートベルト着用状況

シートベルト非着用の死者が増加

シートベルト非着用死者は、平成21年まで大きく減少推移後、平成22年は増加。

着用率調査は、平成17年に86.6%まで低下し、全国最下位となったが、以降は増加傾向で、平成22年(96.3%)は過去最高を更新。

10年間で着用率は11.2ポイント増加、シートベルト非着用死者は、約5割に減少。



1 対象は、トラクター等の特殊車を含む、四輪車の乗員全て。

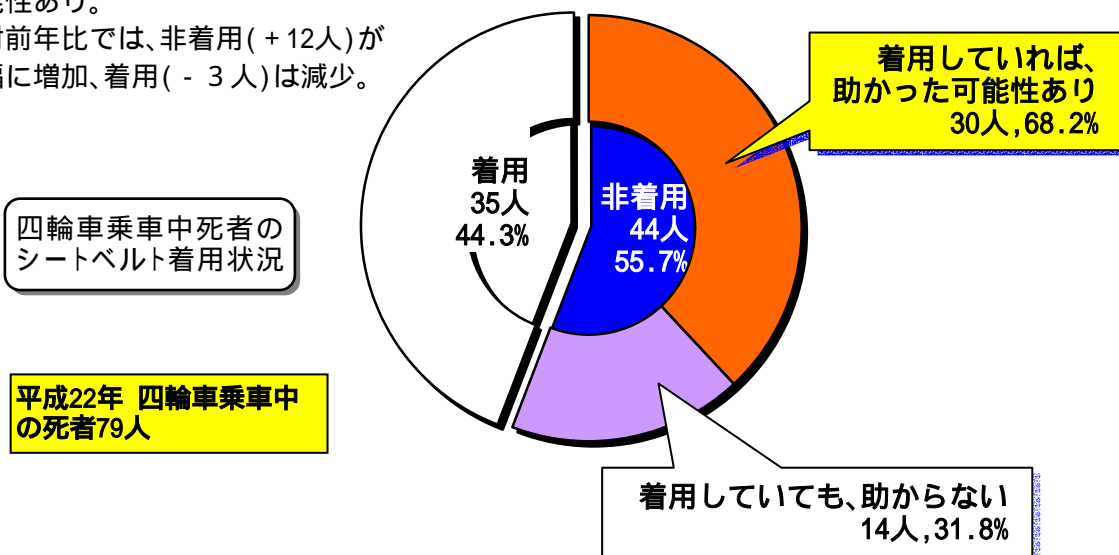
2 シートベルト着用率調査は、一般道における運転者が対象で、平成13年まではJAF、平成14年以降はJAFと警察の共同調査。全国順位は着用率の高い順。

非着用の死者が約6割

四輪車乗車中の死者79人中、シートベルト非着用が44人(55.7%)、着用は35人(44.3%)。

非着用死者44人中、約7割(68.2%)に当たる30人は、シートベルトを着用していれば助かった可能性あり。

対前年比では、非着用(+12人)が大幅に増加、着用(-3人)は減少。



茨城県警察では、本年の交通事故防止対策の重点を

- ・ 高齢者の交通事故防止対策の推進
- ・ 悪質・危険性の高い違反に重点をおいた交通指導取締りの推進
- ・ 交通マナーの向上と歩行者・自転車利用者の交通事故防止対策の推進
- ・ 安全で安心できる交通環境の整備
- ・ 効果的な運転者施策の推進

等と定め、関係機関・団体と連携した広報啓発活動、交通安全教育等を推進し、交通事故の総量抑制及び交通事故死者数の減少を図ることとしている。

【一般部門A / 運転者（同乗者を含む）に対するもの】

ぼくはここ チャイルドシートが 指定席
運転の マナーが光る 早めのライト
一滴が 涙に変わる その飲酒

【一般部門B / 歩行者・自転車利用者に対するもの】

行けるかな 渡れそうでも 待つ勇氣
自転車も 歩行者優先 いいマナー
反射材 つけて輝く 身の用心

【こども部門C / 小、中学生自身に交通安全を呼びかけるもの】

星キラリ 自転車ピカリ 帰り道
あぶないよ いそぐきもちが じこのもと
目的地 「早く着く」より 「ぶじに着く」
運転手さん 急いでいるのに ありがとう

問い合わせ先

茨城県警察本部交通部交通企画課

郵便番号 310-8550

所在地 水戸市笠原町978番6

電話 029(301)0110 内線5042

E-mail keikoki@pref.ibaraki.lg.jp